

# 日本発達心理学会 九州地区シンポジウム

【主催】日本発達心理学会国内研究交流委員会

【共催】日本臨床発達心理士会 九州・沖縄支部、日本学校心理士会 長崎支部、長崎大学

【後援】長崎県教育委員会、長崎市教育委員会

## 「長崎で」気になる子を支援する



【日時】2015年11月29日（日）13:00～16:00（12:20～開場・受付）

【場所】長崎大学 グローバル教育・学生支援棟 4階文教スカイホール

※会場までのアクセスは裏面をご覧ください

### 【話題提供】

井口 均（長崎大学教育学部教授）

「2003年の事件を機に立ち上げた親子広場」

松崎 淳子（長崎市障害福祉センター診療所 診療所長：小児科医）

「医療現場から見える長崎の子どもたち」

前田 博志（長崎県教育庁特別支援教育室 室長）

「教育現場における気になる子への支援～その現状と今後の展望～」

### 【司会・指定討論者】

吉田 ゆり（長崎大学教育学部教授）

### 【企画趣旨説明】

森野 美央（長崎大学教育学部准教授）

※概要は裏面をご覧ください

【定員】先着 200名

事前申し込み不要 参加費無料

テーマに関心のある方はどなたでも参加できます。

【臨床発達心理士・学校心理士の方へ】

本シンポジウムは、臨床発達心理士（1P）、学校心理士（ポイントA）の資格更新研修会としてご参加いただけます（ただし、両資格のポイントを同時取得することはできません）。受付にて手続きをお願いします。

## 【概要】

「また長崎」、2014年の高1女子生徒殺害事件が起きた時、県外、そして県内でもこの言葉がとびかいました。長崎では、約10年前に、園児殺害事件（2003年）、小6女児殺害事件（2004年）と、立て続けに少年による事件が起きました。「再びこのような事件が起きぬように」と様々な取り組みを進めてきた関係者は、「また長崎」という言葉を、どのような思いで耳にし、あるいは口にしたのでしょうか。

今回のシンポジウムでは、それぞれの事件を起こした少年が、何らかの形で「気になる子」であったという共通点に着目しています。更に、「長崎で」というキーワードを含めることで、他人事ではなく、我がこととして捉えるものにするを目的とします。

我々大人は、「長崎で」気になる子どもをどのように理解し、今日からの支援へ活かしていく必要があるのでしょうか。予防的立場（井口氏）、日々かかわりを持つ立場（松崎氏）、行政の立場（前田氏）から話題提供いただきながら、指定討論では、県外から長崎へ来て「気になる子」の支援に関する研究を進める研究者（吉田氏）、そしてフロアの皆様にもご協力いただき、一緒に考えるシンポジウムです。

## 【アクセス】

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

長崎大学 グローバル教育・学生支援棟 4階文教スカイホール

会場までの地図



JR 浦上駅から

- ・路面電車（赤迫行き）で約10分、「長崎大学前」下車 徒歩3分
- ・長崎バス（1番系統「溝川」, 「上床」, 「上横尾」行き）で約10分、「長崎大学前」下車 徒歩3分

長崎空港から

- ・県営バス「長崎空港4番のりば」（昭和町・浦上経由長崎方面行き）で約40分、「長大東門前（旧：長大裏門前）」下車 徒歩1分

駐車場が限られておりますので、公共交通機関をご利用ください。

【シンポジウムに関する問い合わせ先】

[nagasaki1129sympo@gmail.com](mailto:nagasaki1129sympo@gmail.com)（担当：森野美央）

デザイン

長崎大学教育学部 松崎亜美